
待っていたよ。

ラフティー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
待っていたよ。

【Nコード】
N9831D

【作者名】
ラフティー

【あらすじ】
ふと、カレンダーを見るいつしか友達と約束をしていた日。一人約束の場所まで……………。

今日は春なのに寒くて布団に包まりながら携帯をいじっている私

「今日は何の日だろう」

ふと、カレンダーを見る
小さく印が付いていた。

【3時に公園の木の下のベンチ、5時まで待つ】

「あつ」

慌ててパジャマを着替えて家を飛び出す私

母「どこに行くの？」

母が呼んでいるが私はそのまま走り出る

だが、

ザー

「雨だ。」

ぱらぱらと雨が降っている。

歩くのが遅い私には公園まで15分ぐらいかかってしまう。今は1
5:47.....頑張る 私は早歩きで公園に向かった。

急いでいたため、雨の日は履かない引きずれるジーパンを必死にあげて、信号のない道路をばたばたと早歩き。

少し風が出てきた、やっと公園に着くと約束をした友はまだいない

雨の日だからか人は少ない。公園の中を私は少し歩きベンチに腰を下ろした。

しばらく周りを見渡し、携帯を取り出す。

「まだ5分か・・・。」

公園に来て少ししか経っていないのに、すごく長い間待っていた気分がする。

きつと忘れているんだ

ただの口約束だし

向こうにも色々予定がある

そう思うだけで実際私は帰ろうとしない。

何を待っているのか？

信じたいのか？

無理に決まっている。でも心のどこかで期待している自分がいる。

手がかじかんできた・・頬は赤くなっていた。
私は雨の音に耳を傾けた

バシヤ

何の音だろう？

音がしたほうへ目をやると、

『来てくれたんだ。』

息を切らせながらゆっくりとこっちへ歩いてくる見覚えのある顔。

髪は茶髪になっていた、しっかりと女の子らしく化粧をしていて少し、身長は伸びていた。

傘をささずに来たせいでジャージが濡れている。部活帰りらしい。

『先生の用事で部活4時で終わったんだよ。間に合ってたよ。』

ニッコリと笑う友に思わず私も頬が緩む。

しばらく公園でお互いの学校生活や部活などの事を話、二人で帰ることにした。

『今日バイトなんだ、今度来てね。うちレジやっているから。』

「うん、必ず行く。」

そして、彼女はバイトに行った。雨はさらに酷くなっていてすぐに彼女は見えなくなった。

一人家へと歩き出す。

携帯を取り出し、メールを打ち出す。でもそれは友達に送るものではない。今日あった出来事を打っている自分がいた。

そして、まだ彼女との約束は始まったばかり。

次に会うのは成人式。

でも、それはまだ

少し先の話。

.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9831d/>

待っていたよ。

2010年12月18日14時25分発行